

【氏名】 日下 涉

【所属大学院】(助成決定時) 九州大学大学院 比較社会文化学府

【研究題目】

フィリピン政治が直面する階層対立の隘路を克服して民主主義を深化させる「二重公共圏の民主主義」の研究

【研究の目的】

近年民主化を達成した途上国の多くでは、近代的な政治改革を求める中間層と、「再配分」を主張するポピュリストを支持する貧困層との間で階層軋轢が顕在化している。こうした階層軋轢は、根源的には、経済自由主義改革と、人口の多数を占める貧困層からの正統性獲得という、相反する要請の隘路におかれた民主制のジレンマに由来しよう。

さらに、本研究が着目するフィリピンでは、人々が政治について討議する公共圏が階層的に分断されていることが、この階層軋轢を悪化させていると考えられる。

本研究は、この階層的に分断されたフィリピン市民社会の公共圏を、「市民的公共圏」と「大衆的公共圏」によって構成された「二重公共圏」として概念化する。その上で、マニラ首都圏における (a) 二重公共圏の歴史的形成、(b) 二重公共圏による階層対立の助長と政治過程への影響、(c) 民主制と両立する階層対立の再構築、という諸問題を解明することを目的とする。

【研究の内容・方法】

(a) 二重公共圏の歴史的形成

マニラ首都圏における二重公共圏の歴史的形成を、教育・言語、メディア、都市空間に着目して明らかにする。

教育・言語政策では、知的エリートの言語と大衆の言語が乖離していった過程を明らかにする。メディアについては、出版メディア、ラジオ、映画、テレビが、いかに二重公共圏の形成を助長してきたのかを明らかにする。マニラ首都圏の都市空間については、政府による都市計画、私的資本の投資による発展、不法占拠者による都市空間の侵食に焦点を当て、階層的に分断された「二重都市」の形成を明らかにする。

(b) 二重公共圏による階層対立の助長と政治過程への影響

集合的アイデンティティの構築され方が社会集団の政治行動を導くと想定することで、二重公共圏が助長する階層対立が政治過程に与える影響を明らかにする。

まず、市民的公共圏と大衆的公共圏における集合的アイデンティティの構築を明らかにする。ここでは、市民的公共圏における「我々＝中間層＝市民」意識と、大衆的公共圏における「我々＝貧困層＝大衆」意識に着目する。次に、質的調査(インタビューと言説分析)および量的調査(アジアバロメータ・デー

々の SPSS 分析)により、それぞれの集合的アイデンティティに内包される価値と選好を明らかにする。そして、それぞれの価値と選好が、マニラ首都圏階層におけるそれぞれの階層の投票行動と社会運動の傾向といかに関連しているかを明らかにする。

(c) 民主制と両立する階層対立の再構築

公共圏の断絶が階層間の対話と討議を拒むことで階層対立を助長しているという認識に基づき、公共圏の分断を越境した二重公共圏の「重複領域」における対話・討議の役割に着目する。民主制と両立する階層対立の条件として、対話と討議の可能性に着目するのは、他者との討議は自らの選好とアイデンティティを変容させ、最終的な合意はなくとも、その都度の薄い合意をもたらさうという「討議民主主義」の知見に基づく。

【結論・考察】

この研究プロジェクトは現在も継続中であるため、ここでは現時点までの分析に基づく仮説を提示するに留めたい。

(a) 言語の階層的断絶は、植民地主義とその遺制の下で、植民者の言語を習得した者に社会的上昇の機会が開かれた半面で、教育の機会を教授できなかった大多数にはそれが閉ざされることで形成されてきた。マス・メディアは、この階層的な言語の断絶を再生産・強化する役割と、言語の断絶を越境することで揺るがす役割を同時に果たしてきた。それから、マニラ首都圏では、国家による都市計画が農村人口の流入と不法占拠によって浸食され貧困地域が形成されると一方で、ビジネス・セクターの投資によって近代的な商業空間が形成された。これらの結果、マニラ首都圏における公共圏は、言語とメディアによってだけではなく、空間的にも分断された。

(b) 質的調査の結果、以下の知見を得た。市民的公共圏では、責任と道徳を持って政治参加を行い、また統治される能力を持つ「我々＝中間層＝市民」と、その能力を持たない「彼ら＝貧困層＝大衆」という意識が構築されていた。他方で、大衆的公共圏では、発展の恩恵から取り残された大多数の「我々＝大衆＝貧者」と、貧者の苦境を無視し蔑む「彼ら＝金持ち」という意識が構築されていた。現在、量的調査を進めており、この知見との整合性を明らかにしたい。その上で、これらの価値と政治行動との関連についての考察を進めたい。

(c) 階層を超えた対話・討議の契機、すなわち二重公共圏の重複領域として、市民的公共圏の側からは、乗車したタクシーの中でのドライバーとの政治談議が頻繁に言及された。他方で、大衆的公共圏の側からは、NGO や左派活動家、商売上の「ボス」や「カスタマー」との付き合いなどが指摘された。こうした重複領域における対話・討議の可能性と限界について、今後考察を進めていきたい。